



実力発揮の夏

いよいよ地区総体・コンクールが始まります。3年生は、どのような気持ちで中学校生活最後の夏を迎えるのだろうか？後輩たちは、3年生たちの夏に向けた思いをどのように受け止め、引き継ぐための夏にするのだろうか？ご家庭のみなさんは、これまでの日々を思い、子どもたちの夏にかける姿にどのような声援を送るのだろうか？先生方は、ともに過ごしてきた生徒たちとの夏をどのような思いで迎えようとしているのだろうか？苦楽をともに過ごしてきた仲間にはかわからないことだろう。しかし、超一流の詫間中学校の生徒たちに多くの声援を送ってくれている人がたくさんいることは、間違いない。下に昨年度の第104回全国高等学校野球選手権大会での選手宣誓を紹介します。

今年は野球伝来150年の節目に当たります。この記念すべき年に、聖地・甲子園球場で野球ができる喜びに今、満ちあふれています。

ただ、今現在収束しないコロナウイルス感染症の予防に最大限努力、日々の生活を送っています。

これまでケガで思うように野球ができず、グラウンドにさえ立てない時期もありました。また、チームをどうまとめいくかと悩むこともありました。

これらの苦しい時期を乗り越えることができたのは、ほかでもない、ここに甲子園があったからです。そして、指導者の方々、チームの仲間、家族との強い絆があったからだと確信しています。だからこそ、結束力のある野球で恩返ししたい。

一球一球に全力を注ぎ、一投一打に思いを乗せ、高校生らしく堂々と、はつらつと、そして、感謝と感動を、高校野球の新たな歴史に名を刻めるように全身全霊でプレーをし、最高の夏にすることを誓います。

令和4年8月6日 選手代表 横浜高等学校 主将 玉城陽希



横浜高等学校の玉城主将は、「喜びに今、満ちあふれています」「結束力のある野球で恩返ししたい」と言っていました。

みなさんも多くの制限の中で部活動に取り組んできていたと思います。苦しい時期を乗り越えることができたのは、最後の夏に向けて勉強だけではない、人としての成長を部活動を通して感じていたからではないでしょうか。また、指導してくれた先生方、チームの仲間、家族との絆があったことに間違いありません。実力発揮の夏に全力の姿で多くの方に恩返しをして下さい。

さあ3年生、超一流の参加態度、超一流の競技、超一流しかあじわうことができない感動をあじわってきて下さい。後輩のみなさんは、詫間中学校の超一流の生徒として誇りを持って参加し、先輩たちの姿を目に焼き付けてきて下さい。

